



ふれあい



リニューアルオープンした 医療情報プラザひまわり図書室(1階食堂前)

【基本理念】

高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院

- 目次 -

若い医師がドクターGを目指して働く救急センター 安心して受診できる救急センターを目指して	副院長 野崎英二……2
アンケートによる入院患者さんの満足度調査 「中材業務って何？」という皆様に 研修医の独り言	救急看護認定看護師 田中洋子……3 看護部次長 林本郁子……4 中央滅菌材料室 外館善裕……5 廣瀬巨・金井莉沙……6
集中ケア認定看護師の紹介 採血時間の予約制を開始しました 医療局開庁記念病院対抗球技大会を終えて 編集後記	松村千秋・佐々木謙一……7 看護部次長 及川一枝……7 総務係長 乱場定吉……8 広報委員長 島岡理……8

【行動指針】

- 1 良質な医療の提供
- 2 優れた医療人の育成
- 3 地域医療機関への診療支援
- 4 救急医療の充実
- 5 災害医療の体制整備
- 6 臨床研修体制の充実
- 7 健全で効率的な病院経営

※ 広報誌「ふれあい」は1,700部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

若い医師がドクターG(ドクタージェネラル)を目指して働く救急センター

—岩手県立中央病院救急医療部紹介—

副院長・救急医療部長 野崎 英二



ドクターG(ドクタージェネラル)というNHKの番組をご存知ですか。幅広い知識と経験を持った総合診療医(ドクタージェネラル)が、3人の研修医相手に、患者さんの生活歴や詳しい病歴・身体所見から患者さんの病態を解き明かしていく番組です。当院救急センターはそんなところですよ。豊富な指導医(内科系医師1人、外科系1人、循環器センター1人、脳センター1人、小児科1人(輪番日のみ))のもと、3から4人の初期研修医が働いています。全員の目標はまさにドクタージェネラル、患者さん全体をとらえ、そこから病気に迫ろうとしています。詳しい病歴聴取と身体診察が命です。時間がかかるときもありますのでご理解ください。

救命救急センター最前線というテレビ番組もよくあります。どんどん救急車が入ってきて、救急医が寝る間もなく働いている様子が映っています。当院救急センターはそんなところでもあります。救急車を断らないという基本方針のもと、年間救急車6000台、最近10年間で盛岡医療圏の約50%の救急車を引き受けるようになりました(図)。一日16台、日中に8台、夜間に8台。救急車が列をなすこともあります。心肺停止の患者さんは年間約130人搬入されています。指導医と研修医がチームを組んで診療にあたり、入院時には担当科のオンコール医が呼ばれ、全科で救急医療を支えています。救急車が多い時は、歩いてきた救急患者さん(救急車搬入以外)は長時間待たされることがあります。看護師が患者さんの様子から具合が悪い患者さんの診療を優先させる、トリアージという取り組みを行っています。ご協力をお願いします。

約半数の救急車の受け入れ

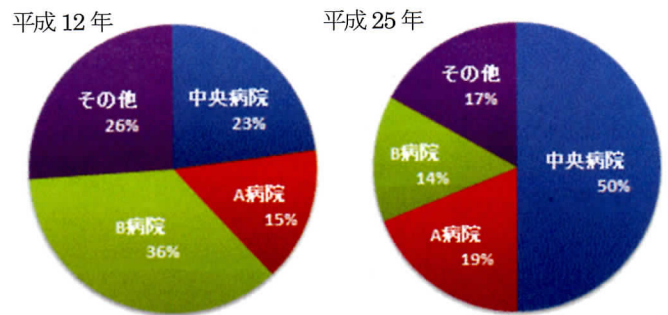
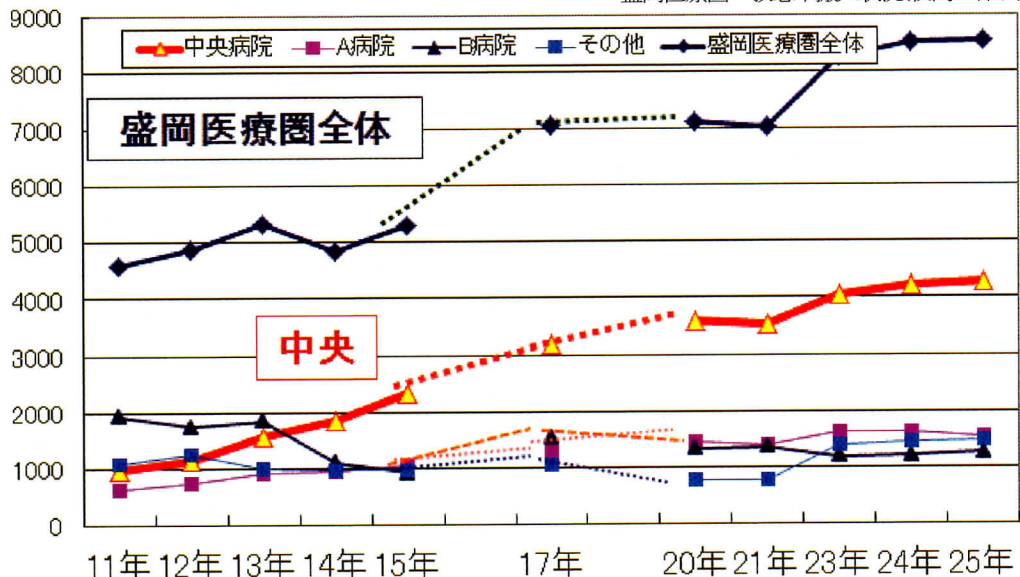


図 最近10年間でこの地域の約50%の救急車を引き受けるようになりました。

このような当院救急センターですが、平成31年の岩手医科大学の矢巾移転の時に大きな転機を迎えます。というのは、現在岩手医科大学は歩いてくる救急患者さんを約2万人以上診ているからです。これら軽症の救急患者さんは矢巾まで行くことはないでしょう。もし当院に押し掛けた場合、当院救急センターは機能停止に陥る危険性があります。

盛岡医療圏全体でこの問題を考えていきましょう。

盛岡医療圏 救急車搬入状況(夜間・休日)



安心して受診できる救急センターを目指して

救急看護認定看護師 田中洋子

思いもかけない時に、熱が上がった、お腹が突然痛くなった、怪我をしてしまった、みなさんはこのような経験はありませんか？

そんな時はおまかせ！そう、私たちは救急センターのスタッフです。中央病院救急センターは「救急車、救急患者を断らない」を基本理念に24時間体制で対応しております。

救急医療の目的は命を救うこと「救命」です。様々な年齢、多種多様な病気や怪我の患者さんに対し迅速で的確な対応を行い、患者さんの社会復帰を目指しています。救急医療の場所は病院だけではなく救急車同乗など病院外、災害時には災害現場での活動も行っています。

救急看護認定看護師は、救急看護の質の向上のために実践・指導・相談を行っております。院内や院外の医療従事者に対し医学的知識や救命技術の指導や相談、また市民に対する救急処置法の講習などを行っております。突然発生した傷病者を誰もが手を差し伸べて助けようと正しい行動ができる、そんな社会を目指して活動しています。

「こんな夜中に・・・」「こんなことで・・・」そんな心配は一切ありません。中央病院救急センターにご相談いただいた際には、適切な対処方法や適切な医療機関をご案内いたします。

これからも救急看護認定看護師として、患者さん・ご家族が安心して受診できる救急センターを目指して活動していきます。よろしくお願いいたします。



災害時のDMAT（災害派遣医療チーム）活動



救命技術指導



救急センターのスタッフです
ただ今深夜1時ですが元気いっぱい！

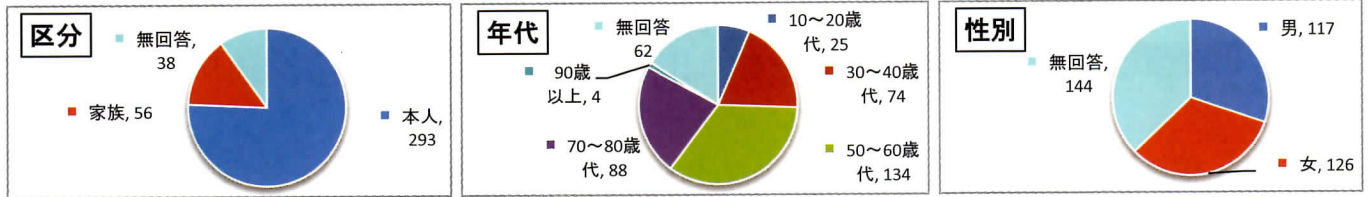


**私たちは24時間救急医療の灯を絶やさず
安心・信頼される救急医療を目指します。**

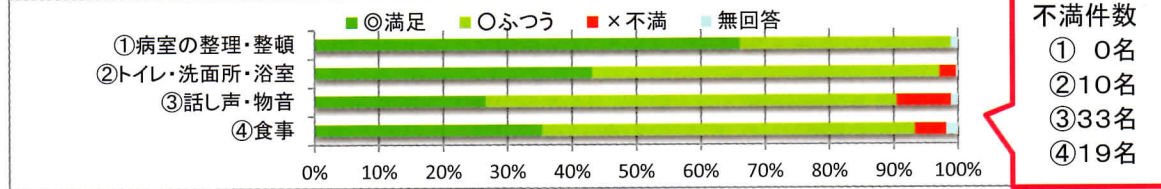
アンケートによる入院患者さんの満足度調査

医療の質向上委員会では、平成26年6月1日～30日に退院時アンケート(退院患者:1365名)を実施しました。アンケートにご協力いただいた患者さん・ご家族は387人でした。ご協力ありがとうございました。

1. アンケート回答患者さんの特徴



2. 環境・食事について



3. 職員の接遇についての結果

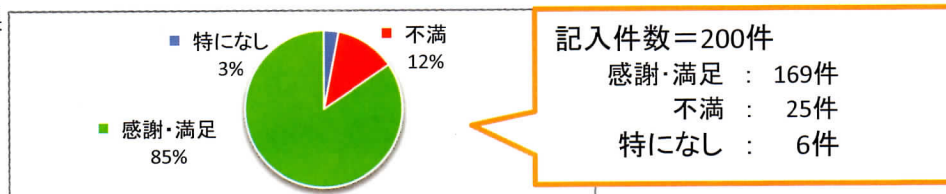
1) アンケートの質問内容

- ①身だしなみは、好感がもてましたか。 ②挨拶・言葉遣いは丁寧でしたか。 ③説明は分かりやすかったですか。
④お待たせしないようにしていましたか。 ⑤質問しやすく、優しい雰囲気でしたか。 ⑥プライバシーの配慮をしていましたか。

2) 結果

①から⑥の質問に対して、「不満」と回答があったのは、医師では0.73%、看護師0.45%、栄養士0.51%、リハビリ技師0.21%、そして事務職員0.79%であった。薬剤師では「不満」の回答は無かった。いずれも好成績であり、今後も不満患者さん「0」をめざします。

4. 意見欄の結果



5. 意見(不満)の内容⇒回答

<p>■騒音 顔見知りの患者さん同士で部屋の往復、会話が気になった。4時前から電話や冷蔵庫の開閉が朝うるさかった。入院患者の消灯の時間を守らない、窓の開閉等の身勝手な行動が気になった。ベッドメイキングや掃除の時にうるさくて赤ちゃんが起きるのではないかとハラハラした。私語が多くなるさい。 ⇒看護職員・清掃業者で共有しました。患者さん同士のことで気になる点は、職員へお伝えください。</p>
<p>■設備 トイレ 点滴台を持ちながらのトイレが、狭すぎる。トイレのシャワーの故障などでトイレはあまり良くありませんでした。水道の蛇口がセンサー式になればより良いと思います。 浴室 脱衣所の足元にすのこ・マット等があれば、良いと思いました。車イスの方のためだと思いましたが、お風呂の急な坂の入口が少し怖かったです。 ⇒トイレは今年度から順次改修予定です。浴室は、転倒の危険と感染の点からご理解をお願いします。</p>
<p>■接遇 医師は声を掛けにくい雰囲気があった。 髪の毛の色や長さが気になりました。 言葉遣いは上からの物言い。質問にはこたえず、優しい心くばりの出来ない看護師。「我慢出来る痛みですか?」と質問され、我慢出来るならしろ!とされているような気がしてしまいました。 ⇒身だしなみ・言葉遣い等、患者さんの立場に立った対応を行うよう周知いたします。</p>
<p>■掃除 お風呂の着替えスペースやトイレの洗面スペースがもう少しキレイだと良かったと思います。トイレの手すりのほこりを拭き取って下さると、皆さんがもっと助かると思いました。 ⇒清掃業者へ伝えました。</p>
<p>■食事 朝食の時間と昼食の時間が短いので、朝食を少し早く出来れば良いかなあとと思います。冷たい食事が来るなんて残念でした。 ⇒朝食時間について、要望等のアンケート調査を行い検討します。</p>

*その他にも貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後も、お気づきの点がありましたらお知らせください。

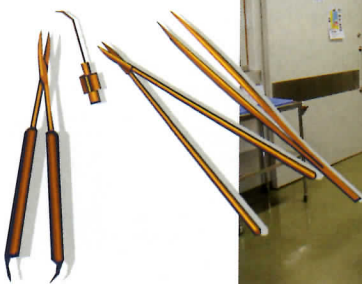
「中材業務って何??」という皆様に…

中央滅菌材料室 外館善裕

はじめまして、中材を管理担当しております。感染管理認定看護師・第1種滅菌技師の外館です。私は、現在、東京医療保健大学大学院で感染制御における滅菌供給管理を専攻し日々研鑽しているところであります。私の自己紹介はこれ位にしまして、以下、中材の紹介をしたいと思います。

まず『中材あるいはサプライ』とよく略されて言われておりますが、正式名称は『中央滅菌材料室』となります。その役割は、ズバリ『臨床への器械・医材の供給』であり、サプライ=供給と言われる所以でもあります。しかしながら、器械・医材を適切な処理をしたうえで、安全かつ迅速に現場に供給するためには、消毒・滅菌に関する専門知識と技術・環境整備、そして現場との連携が必須であり、物流全般に関するマネジメントも必要となります。

岩手県のセンター病院として高度救急医療を担う当院では、年間約5,400例の手術や1万4000件を超える内視鏡検査など、まさに医療器械や材料が多種多様かつ大量に必要とされています。その中で、中材には滅菌装置や、洗浄消毒装置の設備を保有し、病院内の手術や、検査、その他の処置に使用した医療器材を、現場での使用後の回収から、洗浄、検品、組立、滅菌、保管、そして再び現場に供給するところまで全てを一括して行う『中央化』を導入しております。この方法は、現場での一次処理などをしないで済むことから、職業感染対策、院内感染防止の面からも世界的に推奨される方式となっております。まずは、「百聞は一見に如かず」その眼で中材業務を確かめてみて下さい！



研修医の独り言

1 年次研修医 廣瀬 亘

研修医になってから半年が経ち、あっという間に2年の初期研修期間の4分の1が終わってしまいました。私は神奈川県出身ですが、東北の人は皆とても温かみに溢れていて、多くの方々に支えられて研修することができています。この半年間は毎日様々なことに直面しました。自分の成長を実感して自信をつけることもあれば、満足に出来ず落ち込んで家に帰る日もあります。そんな中、中央病院の方々は皆優しく、根気強く指導して下さります。また何より嬉しいのは、自分なりに患者さんと向き合ったときに「ありがとう」と声をかけていただくことです。そんな風土の中で医師としてのスタートを切ることができ、中央病院で研修することができて良かった、と心から感じています。

6 か月で消化器外科と循環器科をローテーションしましたが、指導医の先生方はすばらしい先生ばかりでとても充実した研修を送らせていただきました。学生時代からずっと小児科志望でしたが、どの科にも魅力があり迷う気持ちもあります。あと1年半、どの科に進むことになっても後悔しないように、日々精進したいと思います。



最後に、写真は研修医でさんさ踊りに参加した時の写真です。同期にも恵まれ、つらい時でもお互いに助け合い笑い合いながら研修することができています。1 つ上の先輩も頼もしく、充実した研修を送ってきたと思わせる方ばかりです。来年入ってくる後輩に胸を張って中央病院での研修を勧められるよう、励みたいと思います。

1 年次研修医 金井 莉沙

当院での初期研修が始まってから半年が経ち、ようやく病院や日常業務にも慣れてきました。

当院での研修を希望した理由は、研修病院としての歴史が長く、診療科が揃っていて指導熱心な先生が多いことを魅力に感じたからです。実際に、研修医向けに勉強会が頻繁に行われたり、学会で発表させていただく機会を与えていただいたり、と、研修医に対する指導が手厚く、大変充実した研修生活を送っています。

最初の3 ヶ月間は、神経内科で研修させていただきました。疾患の知識だけでなく、医師としての心構えや姿勢を教えていただき、自分の基盤ができたように思います。また、治療によって病状が良くなり退院する患者さんを見て、とてもやりがいを感じました。

同時に救急外来での診療も始まり、最初は戸惑うことも多々ありましたが、今では必要な検査を考えオーダーした上で原因疾患や入院適応を判断できるようになり、成長しているのを日々感じています。

8月と言えばさんさ踊りですが、私は盛岡育ちでありながら、今年初めてさんさ踊りに参加しました。本番は病院一丸となって楽しく踊ることができました。また、お世話になった病棟で患者さんの病室を回り、看護師さんと一緒にさんさ踊りを披露したのも良い思い出です。このように、研修以外のイベントも充実しています。

この写真は研修初日に、病院の屋上から見える岩手山を後ろに同期18人で撮影したものです。みんな初々しくてお気に入りの写真です。同期と切磋琢磨しあいながら、時には励ましあいながら、日々精進していきたいと思っています。



集中ケア認定看護師の紹介

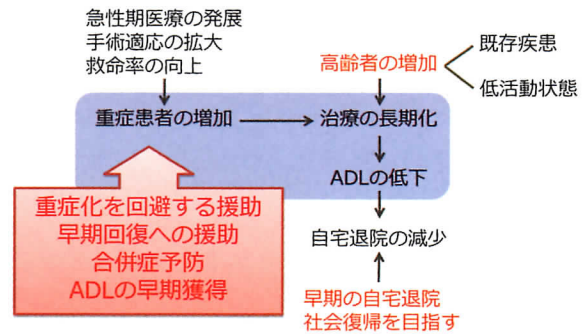
「Speed、Smart、Smileがモットーです！」

松村千秋 佐々木謙一

集中ケア認定看護師は、「病状変化が急または重症な患者さんに必要な看護」を得意とする看護師です。具体的には、病状変化の早期発見、重症化を避け早期回復を促す援助、苦痛緩和と安楽を促す援助、患者さんのご家族へのサポートなどを行っています。また、スタッフへの教育的関わりも役割の一つです。

‘集中ケア’と聞くと、ICU(集中治療室)での看護を連想するかもしれませんが、「場所」に限らず「病状変化が急または重症な患者さん」に必要な看護です。

近年、2025年問題に向けて医療界では、心身の機能低下を最小限にした早期回復、在宅(地域)と病院の連携強化が謳われており、‘集中ケア’が重要視されています。一人でも多くの患者さんのお力になれるよう、Speed、Smart、Smileをモットーに日々がんばっています。



こんな時には、ぜひご用命下さい！一緒に問題の解決を致します。

- 患者さんの回復を妨げる様々な看護問題に関する相談
- 看護スタッフのスキルアップへの支援

☆連絡先 中央病院 ICU 内線 5253



松村 千秋



佐々木 謙一



採血時間の予約制を開始しました

看護部次長 及川 一枝

平成26年9月1日より1階中央処置室・2階採血室での採血時間の予約を開始いたしました。診療予約の1時間～1時間半前を目安にお出で下さるようお願いいたします。

以前は、番号札をお渡しし先着順に採血をおこなっていたため、早朝から中央処置室前が混雑をきたしておりました。混雑を解消し、待ち時間を短縮し、少しでも早く採血結果を出し診療がスムーズに行われるように、診療部・中央検査部・事務部門と一緒に検討してきました。

まだお知らせが行き届かず、ご迷惑をおかけしております。また、採血をする患者さんが曜日によって多くなる不均衡さや、採血の予約時間が集中している時間があり待ち時間が長くなる曜日が発生しております。これからも検討を重ねていきますのでよろしくご協力のほどお願い致します。

採血の時間予約が始まります

1階中央処置室・2階採血室では平成26年9月1日より診療予約時間に合わせた採血時間の予約制を導入いたします。

診療予約時間のおおむね
1時間前に採血します。採血の順番が
変わります

- 採血の順番は診療予約時間に合わせた順番になります。
- 例 11時台診療予約の方 ⇒ 10時台に採血します
- 何時台の方が採血中か表示します。
- 患者案内票は今まで通り各採血室受付にお渡しください。
- 診療予約時間の1時間前までに各採血室前にお越しください。

医療局開庁記念病院等対抗球技大会を終えて

総務課総務係 乱場 定吉

毎年、「医療局開庁を記念するとともに、職員の元気回復、体力の向上及び職員相互の親睦」を図るため、「医療局開庁記念病院等対抗球技大会」が開催されています。

今年は、第63回目で6月28日(土)に中部地区大会、9月13日(土)に県大会が開催されました。

中部地区大会での中央病院の成績は、野球2位・排球2位・庭球1位・卓球2位ですべての種目で県大会の出場の切符を勝ち取りました。

また県大会でも野球・排球・卓球が3位、庭球が2位とこれもまた素晴らしい結果を残すことができました。

仕事が忙しく、また練習場所の確保も困難で十分な練習をする余裕も無い状況下で、これほどの好成績を残せたのもチームが一丸となり闘争心むきだしで頑張ったからだだと思います。

暑期中、参加して頂いた選手・応援者など大会の運営に協力して下さいました職員の皆様、そして当日勤務で病院を守って下さった職員の皆様、大変ありがとうございました。

また、来年も当大会が開催されますので、選手の皆様は今年以上の成績が残せるよう練習に励むとともに、職員の皆様の応援と御協力をお願いします。



編集後記



あつという間に10月ですね。これからインフルエンザの季節、気をつけないと、思っていたらエボラ出血熱です。報道を見ている限りではWHO等が感染拡大を甘く見ていた節があります。エボラはインフルエンザなどと違って飛沫感染、空気感染はしない?から感染地域は限定されるとタカをくくってしまい、今まではごく一部の風土病的な位置づけでもあったためワクチンなどを創っても採算が合わない事もあって話題にはなりません。AIDSの時も当初はそうでした。あつてはならないことですがこういった感染症流行の度に感染者への差別が起こります。正しい知識を持って正しい行動を取る。医療者のみならず必要な事です。ただ感染症管理、清潔操作になれているはずの医療関係者でも二次、三次感染が起こっていますのでそう簡単ではありません。ここは国として国民を守るためにどれだけ危機管理に対して常日頃から準備をする体制を取っているか、が問われる事態だと思われれます。例えば国の方針としてP-4施設を正常に稼働させ危険ウィルスへの対策を可能にする体制を実現することもその一つだと思いますがいかがでしょうか。

常日頃から不測の事態に対して準備を怠らない。「言うは易し行は難し」ですが病院にもそういった機能が求められます。不測の事態に対する表だつては見えない努力をする。そういう信頼される病院を目指していきたいと思っております。(広報委員会委員長 島岡 理)



★おしらせ★

「地域包括ケア」ってなあに?
～あなたの地域のこれからの医療～

日時: 27年2月15日(日)14時から
場所: プラザおでつて
入場無料・事前申込み不要



ふれあい: No267 平成26年10月 発行
中央病院広報委員会

◆委員長 島岡 理

- | | |
|--------|--------|
| 村上 晶彦 | 下長根 敏昭 |
| 古舘 美佳 | 福田 耕二 |
| 米通 由美子 | 増田 晃 |
| 田沼 睦 | 曾我 美沙希 |
| 大久保 忠吉 | 高橋 和哉 |
| 荒田 綾子 | 吉田 奈穂子 |

岩手県立中央病院

〒020-0066 岩手県盛岡市上田1-4-1
電話 019-653-1151 Fax 019-653-2528
<http://www5.pref.iwate.jp/~chuohp/>



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

「ふれあい」はホームページでもご覧いただけます。